

部活 ing

多くの人数で取り組むことは楽しい

メモ 旧制尼崎中学校として1923(大正12)年開校。48年、県立尼崎高校に。生徒数は934人。公立校では県内唯一の教育コース「教育と絆コース」がある。運動部は野球部やサッカー部など20部、文化部は書道部や朝鮮文化研究部など15部。「尼崎21世紀の森」活動での植樹、「尼崎運河博覧会」のイベント企画など、さまざまな地域貢献活動も続ける。

美術部

県立尼崎高校 (尼崎市北大物町)

美術は部屋にこもって1人で取り組むもの。その固定概念は、ここにはない。「もう少し赤い色が欲しいな」「いい感じ」。3月初旬の美術室。部員らが現代美術家の指導を受け、「マーブリング」に取り組んだ。

マーブリングとは、のりと水を混ぜたバット(容器)にアクリル絵の具を落とし、そこに紙を乗せて転写させる「偶然の妙」を表現する手法。部員たちはそれをしおりに仕上げ、後日、地域の高齢者にプレゼントした。

「本年度は特に、作品を通じた外部との交流が多かった」と、顧問の松岡昭彦教諭が振り返る。近くの神社の絵馬を描い



たり、尼崎市制100周年記念の「ぶんぐ展」に、中でも市民グループと日本酒の菰樽に絵を描き協力し、2018年に築

城400年を迎える尼崎城を、実物大の布絵で再現した取り組みは注目を集め、新聞やテレビなどでも紹介された。

新部長になった2年生の喜多望美さん(17)も、布絵の制作に参加。「多くの人数で取り組むことは、なかなかできないし楽しかった。今後も共同制作の機会をつくっていきたい」と話す。

足を使った油絵で知られる世界的な画家、故白髪一雄氏も同部出身。形にとらわれず、自由に創作する姿勢は、後輩たちにも受け継がれている。

(吹田 伸)

協力しながら一つの作品を作り上げる部員たち。尼崎市北大物町

外部と交流、共同制作も